

JANOG43

サイバーセキュリティBoF#4

開催レポート

一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター
株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社NTTPCコミュニケーションズ
さくらインターネット株式会社

(2019/2/15 反省会アジェンダ)

- 事前準備内容・アンケート内容についての反省と評価
- 当日内容についての反省と評価
- 事後アンケートからの反省と評価
- 当日の進行・会場運営・分担についての反省と評価
- 全体通しての評価・「JANOGでBoFをやる」事についての評価
- それぞれ登壇者・参加者の個人評価
- 次回に向けて

事前準備内容

アンケート内容についての反省と評価

- 発表の量ちょうどよかった・構成・ストーリーも適当だった
多すぎず・少なすぎず
- 事前アンケートもとに、参加者に話を振ってディスカッションすることができ、とてもよかった。
三重に続き、アンケートの効果が確かめられた。
次回以降も行えると良い。
- 当日BoF開始直前までQRコードでURL示しアンケート募集したのは効果的だった
(当日朝回答数22件, BoF開始時回答数合計45件, 会場で23件の回答をいただいた)
- 「スマホでぽちぽち回答できる」量のアンケートにしておくが良い
- 次回は、「本BoFの参加回数」を訊くと良い、初めて～6回、リピーターが居るかどうか知りたい
- QRコードでURL共有は閲覧してもらいやすい。
その場限りの資料URL共有する等もできるかも。
- 当日参加できなくてもBoFタイトル読んで「行きたかった！」と思ってもらえるタイトルが必要

- 今回「事業者毎の見解」を並べる発表をした、投影する情報が「整理されている」形になり、伝わりやすかったのではないかな。
登壇者毎に別々の資料を用意するより見通しが良く、また個社個別では開示しにくい内容も盛り込むこともできたのではないかな
- BoF応募の前に1回目の打合せスケジュール立てたので、BoF採択後、2018年末すぐ企画打ち合わせができた
直前の打合せも重要、資料すり合わせ。
JANOG BoF前BoF（BoF会場割り当てなどを決める）の後に2回目の打合せをすることで、BoF当日の会場の情報も2回目打ち合わせ時に登壇者間で共有できた。
- スライド作成はGoogleスライドつかうと複数登壇者同時編集できてよいとおもう
登壇者の組織事情など、かならず使えるとは限らないが・・・

当日内容についての反省と評価

- 参加事業者の色を付けない点で、JPCERT/CCに冒頭発表と司会をしていただく今回の形式はととてもよい
理想言えば、JPCERT/CC発表はIRチーム、司会は早期警戒グループだと良い、かなー？
- 登壇者は今回「ジャンル絞った」と思っているが、それでも参加者の中には「幅広い、情報多い」と感じる人いただろう
JANOG BoF 機会は半年に1回しかないので、絞るなら深く、浅くなら広げるなどさまざまなディスカッションができるように計画していく必要がある。
- JANOGでabuseネタ深く話すのは、対外的にあまり言えない、言うべきでない情報が混じる恐れもあり、リスクもある
- BoF参加者にめぼしい人、活発に発言いただけただ方、BoFの時間は限られるので飲み会に拉致るべき
- 宴会番長ひろって宴会会場を先に押さえておくべき
- アンケート公開承諾を得ておいたのは助かった、三重BoFの時は公開承諾を得ておらず公開できていない
BoFのあともあちらこちらでアンケート結果を使いまわすことができています ([リンク](#))

- BoFやったら（今日のように）反省会やるべき
また主催側に求められていなくても、振り返り内容報告する等、配慮できると良い
- 本反省会資料をJANOGプログラム委員に送付するのもよいのでは
- 当日投影資料、現在非公開だが再レビューして公開しても良いのでは
JANOGプログラムページに事後資料として追加掲載してもらうことができるし、次回以降のBoF開催時、前回資料として参加検討する人に見てもらうことができる
- 当日の資料ほしい、というリクエストが参加者からあった
- 50人参加、JANOG3日のべ1000人参加として、5%の参加？　そこそこの人数に参加いただけただけではないか？
初日は参加者少ないから、10%ちかく参加してもらえたのかもしれない？



事後アンケートからの反省と評価

- 参加55名(1/23 17:00時点)、有効回答12件、うち9件が良い評価、大成功だったのでは
- 事前知識が必要、知識が乏しくわからなかった、の意見が3つある。
知識レベルどのくらいにするかはむずかしい
- 「難しい」という人はどこが難しかったのだろうか？
言葉自体が難しく世の中にとっても不要な知識であれば、登壇者が内容選定を誤っていることになる
一方、参加者が難しく感じたとしても、世の中にとっても必要な知識なのだとするれば、「必要な知識の敷衍」のため、今後のBoF機会ももちろん、より一層活動推進する必要があると言える
- 学生にEOL, NDA, SOHO, etc etc の用語は厳しい
参加者全体と共通言語で話すのは難しい
用語を事前に解説しちゃうとか？・・・準備できるだろうか
BoF内で説明するのも時間が限られる以上難しい
細かくフォローすると元々知識ある人にはヒマ

- 前回BoFの資料をあらかじめ公開しておくとか、「abuse」の業務について説明する資料を用意しBoF開催直前のヒマな時間に参加者に読んでもらえるように配慮できると良いかも
- 公開できる範囲の資料は前もって公開しておけると良い
BoF中に質問しやすいのでは
- 「abuse BoF」は人が来ない、「サイバーセキュリティ」というと人が来る
サイバーセキュリティ期待して参加すると面食らう。
でも仕方がないのではないだろうか

当日の進行・会場運営・分担についての 反省と評価

- 運よくプロジェクター、HDMIインターフェイスだった
接続コネクタ規格・投影PCは複数準備しておくで安心
- 今回登壇の関係者が参加者に2名おり議事メモ採ってくれた
とても助かった・役に立った・反省でも使用した
- 今回スライドは装飾すくなめ、シンプルだけれど、投影時の視認性良く、使いやすかった
- 複数人で編集して作った、このスタイルやりやすかった
- 会場を狭く取って成功だった、マイク使用できなかったが声とどいて不自由しなかった
- もし会場が広かった場合も、前の方に椅子を集めるとか
- 次回機会があった場合、目標参加者数どのくらいにするか見積もると良い、50~60人位？

- 今回時間配分・進行、かなりうまくいった、ベストに近い
スライド枚数、事前アンケートの項目数、会場の発言など、バランスがとてもよかった
と思う
- 登壇人数今回5人、ちょうどよい？
増えるとつらい、3人だともう発表成り立たない
三重5人、金沢6人だった
会場に発言促す話題の広がりや、「わいわいやってる感じ」を作るのに5～6人がちょ
うどよい
- BoF重ねる際、登壇者は前回とメンバー2名程度重複していると良い
登壇者が同一だと代わり映えしないが、同じ人が数人でもいると、複数回BoF参加して
いる人に親しみを持ってもらう、抵抗すくなく発言してもらうことができるのでは

全体通しての評価・「JANOGでBoFをやる」事についての評価

- いろいろな人に事業者・公的機関のabuseの活動わかってもらえるので良い
- いろいろな人に参加いただくことで、登壇側もさまざまな意見に触れ、知見広めることができる
- 仲間増やしていけると良い、BoF重ねることで何度も参加してくれる人、リピーターを増やしていけると良い
- 情報交換会が非公開であるので、JANOGのように公開の場所で発表することにより、非公開の場の運営にも良い影響があるのでは
常に事業者同士だけで話をするのではなく、他の立場・視点の意見を受けることが大事
- JANOGも1回のBoFの感触だけで、BoF開催の意味・効果は見極められない、何度も重ねていく、継続していくことが大事だと思う
- 続けていく趣旨では、どのように効果測定すると良いだろうか？
何が測定できれば、継続の意義があると判断できる・説得できるだろうか？
- これからも機会あればBoF応募するぞ

- 前回まで、サイバーセキュリティの知見を発表する内容が多く、一方で今回、事業者の取組にフォーカスした内容だった
事業者の取組を発表する内容が支持されるのか、次回測定できると良い
- 事業者にフォーカスするのもよいし、また少し違う立場の登壇者も招くと良いのかもしれないし、効果測定しながら企画検討することで、サイバーセキュリティの底上げに貢献できるのではないか
- 今回登壇参加してみて、他社の取組状況がわかり参考になった
社内にも報告することができた
- タイトルにサブタイトルつけて、その回のBoFの主題の違いを分かりやすく示すことができるのでは
サイバーセキュリティの一言だけでは曖昧過ぎる、サブタイトルを設けることで参加を検討する人に参考にしてもらえるのではないか

- やっぱり反省・検討は重要
次回の企画に生きる、参加者にも参加して良かったと思っても
らうことができるのではないか

それぞれ登壇者・参加者の感想

- (JPCERT/CC)BoF本番、登壇者まんべんなく発言やフォローをしてもらったと思う
登壇者に恵まれた、バランスよかった
- (Ncom)事前準備過程で、事業者相互の情報交換ができたし、事前・事後アンケートでいただいた意見を形に残すことや参加者の評価を受けることもできた、参加者からも積極的な発言をもらうことができてすごくよかった
- (NTTPC)自社と他社と対応状況を比較し、自社の状況を客観的に評価することができた。
これにより、次に社内で行うべきことを知るきっかけ、社内理解得るきっかけにもなり良かった
会社に対してフィードバックできる内容が増えていくと良い
- (KWC)今回に限らず、このような場に参加することで、他社の状況自社に伝えることができる。こうして情報持ち帰ることのできる活動機会得にくいので、貴重であるし、コミュニティ活動に理解を得ることもできて良い
- (さくら)登壇者を少しずつ広げていく事で、登壇した人たちの信頼関係につながり、非公開の情報交換会にもよいフィードバックが働いていくと期待した。今回、2社様に過去登壇されていない方に登壇していただくことができとてもよかった。

次回に向けて

- 7月神戸のタイミングだと、総務省NOTICEプロジェクトを話題に取り上げてはどうか
「注意喚起したんですか」「効果どうでしたか」「機器ベンダーさんはサポート問い合わせ来ましたか？」
注意喚起が始まっていれば、会場からも関心持ってもらえるかも
- 関西の事業者さんに登壇いただけるなら、レンサバの話をしてみたい